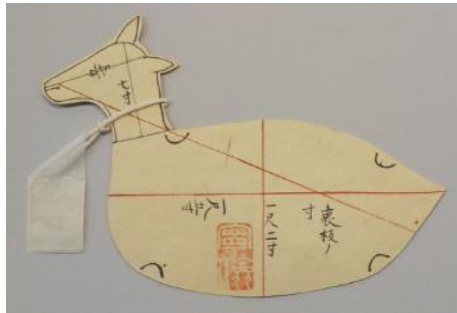


5	〔雛形〕(草鹿形、的)	(近世)	(渡辺正縄)	1点	加藤家 347
	鹿の形を模した弓術の的の雛形(小型の見本)です。				



一見かわいらしい鹿のグッズに見えますが、胴体の中心には的があり、弓術の的の雛形です。的中と見なされる白円の4寸的のほかに、裏面にはサイズ等が記されています。

当文書群には様々な雛形が約20点あり、中には手形と紙の紐で弾(ゆがけ、弓を引く時につけるグローブ)の紐の結び方を示すものもあります(文書番号350)。

この資料には、包紙にも興味深い点があります。1つは「寧儉」の朱印です。当文書群にはこの印の押された資料が約100点もあり、そのほとんどが武芸や、小笠原流礼法をはじめとする礼法の資料です。

2つめは「渡辺正縄」という署名です。当文書群にはこの人物が作成したり、その可能性のある文書が数10点に上ります。正縄は「家中由緒書」によると、家老・渡辺左門の嫡子で、武芸掛(係)などを勤め、嘉永元(1848)年に43歳で亡くなりました。